

常磐文藝

一日一吠罵句付集(一)
悪口寺 罵呵山人

◎罵呵山人近頃陽氣の加減か虫の所爲か不可思議の夢を見たそれは斯ふのである

一夜罵呵山人の枕頭にて善哉々々と云ふものがあるハテ俺は汗粉屋ぢやないのにゼンザイを呉れどは何事かと鎌首をヌット引立て見るとテカ〜の禿頭にクスブツたぐす黒い顔で眼計りギョリト光る大入道殿が分の厚い唇を開いて善哉ゼンザイだ曰く罵呵よ吾は之れ當寺の本尊罵倒尊なり汝元來寺法を格守し克く毒舌を弄して世の中を悪口する其功にめで今十罵句を授けんぞさのたまひける吾思へらくハ、ア本尊様お彼岸の牡丹餅のお裾分をする氣だナと意地きたなくも兩手を出してうやくしく頂戴したのは何の牡丹餅の重箱ならで左の十罵句を記したる紙片であつた何でもコリヤア御本尊様のお授けだから俺一人で見るよりも世間の衆生に發表した方がよかんべいと思ひ貴紙に投じた次第なのです

秀優群拔

千代田火ノシ! 富貴コテ! は

和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 電話 一三九番



刊夕日五月四

定価 一月五錢 三月十三錢 半年二十五錢 一年五十錢
印刷所 一〇活版所

發行所 磐城郡平町字長橋町五番地 電話 一三九番

銘長生
ビール・サイダー
平町南町
磐崎屋支店
電話 六〇五番 四二五番

看護婦派出所
の求めに應ず
平町南町
看護婦會
電話 三〇七番

春季大特賣 均一制度
郷土社
原稿紙大廉賣
四百字詰 百枚 三十錢
百五十字詰 百枚 二十錢
チマミナミ・ラヒタ

神社佛閣附屬彫刻
銅像木像
金看板及
圖案
玉峰堂
子弟入用に付き
御希望の方御來談相成たし
一十九町冶鍛古平

大帝キネの黄金時代出現
羅馬の使者 大史劇
蓋世の英傑獨眼龍伊達政宗が海國男子を代表してローマ帝國に大和民族の氣を吐ける一場
未知の國 映畫劇
(戀の不具者の哀しき挽歌)
其他實寫や喜劇數篇
活動 帝國館 電話 五五五番

空前の大勉強
靴と運動具が
と云ふ事は豊富な品を御一覽下さればわかります
平白銀町 大塚支店
徒弟數名入用

株式買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	時價
平銀行	五〇〇	
磐越銀行	一一五	
磐城實業	三〇〇	
田村實業	一一五	
四倉銀行	一七五	
農工銀行	二〇〇	
同 新	一五〇	
百七銀行	五〇〇	
同 新	一一五	
七七銀行	一一五	
郡山電氣	五〇〇	
同 新	二五〇	
只見川電	一一五	
植田水電	一一五	
好間水電	一一五	
磐城建物	一一五	
磐城製菓	二〇〇	
平信託	五〇〇	
磐城勸業	一一五	
植田物産	三〇〇	
平製氷	二五〇	
好間軌道	五〇〇	
入山新	三二五	
小田炭礦	二五〇	
磐城炭礦	五〇〇	
同 新	二二五	
磐城セメント	五〇〇	
同 新	二五〇	
平運送	一一五	

東新株 先限 實物
前場後場共入電致居候
平町田町 電話 三三二番
丸登株式店
川添房二郎

頭梁術の修養(一)

中山雅司

天の時は地の利に若かず、地の利は人の和に若かず、凡そ社會的の事業を爲さうとするには事の難易輕重を問はず完全充實した資本とか計劃とか云ふ事以外必らずや和心協力所謂人の和と言ふ物の力を拵たねばならぬ事は當然である。

それにはどうしても事業の主腦となる者が人を使ふ才能、つまり部下を巧に操縦する事は勿論外部に對して業の經營を遣つてのけるだ

けの手腕が無ければ駄目である、こんな事は誰にも解り切つて居るのであるが、奈何せん今日の狀態これを調査し來れば悲しいかな、矢張り主腦者の器が足り無く坐ろに人をして萬卒は得易く一將は得難しの歎を發せしむるが多いから頗る情無い

學校其物は知識を教へ技能を授けるけれども『頭梁術』とも名づくべき科目はない全世界の學校に一つもないけれども實社會に於ては親分たり、頭梁たる人が必要である、それにも拘らず下らない雜魚ばかり多い、今

日は勢い頭梁たる資格が無い者を頭梁に昇らせたりするのでロクな仕事は出來ず多く失敗に終るのである。そこで頭梁術の綱領を煎じ詰める『太つ腹』の一語に歸す

此の太つ腹の心的狀態を解剖すると膽力の据つて居るといふ事も大部分を成して居るが所謂細心でなければ眞の大膽になれぬと同様單なる天性の豪氣膽力だけでは出來ない藝當である、凡て物事に對し徹底した自覺と信念がある併し是れは學問上の空理に對してで無く其多くは實際上の人間世間に對してである(續)

難産か？安産か？ 政派は産みの苦しみに 待つて呉れ給へ

待つて呉れ給へ 産婆役ニジリ鉢巻

今日候補者の決定する石城
政友派では早朝から例の如
く大村屋旅館に最高幹部が
集合して協議に更けて居る
同旅館の玄関ならぬらんだ
二列縦隊の下駄や靴が目白
押しになって居るのを見て
もお産の時間が益々切迫し
て居る形勢で今や正に産み
の苦しみに産婆役がニジリ
鉢巻で苦心の態が眼に見え
る様だ常任幹事の山田忠太
郎氏を呼び出して『未だか
？』と聞けば『今一時間！
方！』と遊説中である

目方で白米の賣買 本月下旬から施行

量目取引の正確を期して
角柄取引に弊害のある事は
農業関係者は勿論臺所の奥
さん方まで認める問題で夙
に此の改正案はあつたが今
回漸く實施の機会に到達し
た譯で今月中頃縣下の米穀
取引商を召集して之れを詳
細に徹底せしめ然る後直ち
に施行令を出す方針である
との由傳へられて居る

武道大會延期

選舉終了後に
平署内演武場新築落成式を
兼ねた縣下武道大會は本月
中旬を期して開催する豫定
であつたが時恰も平署は選

本紙の豫報通り政派候補者は星一氏に決定す

常磐片々

政友派はお産の眞ッ最中
産婆役が氣でなく立つた
り座つたり
○ オギャーと生れるのは一体
○ どの子か
○ 片輪者やロクデナシでない
○ ようにと祈るは親心
○ 比佐チャンはもう片言交り
○ で演説をやつてますヨ
○ 星サンが産れそこなつたら
○ 勝味のない者と覺悟すべし

平驛頭に 滞貨充満す

昨秋震災後貨車の不廻りか
ら各驛の滞貨夥しく平驛も
そのお多分に洩れぬが三月
中に於ける同驛貨物取扱數
を聞くと發送が木材六百九
十五噸木炭二百廿五噸石炭
百卅六噸食鹽百廿五噸セメ
ント百八十三噸で到着に於
て米三百七十七噸木材九百四
十五噸木炭七十七噸石炭三
千三百八十八噸食鹽三百廿
七噸砂糖二百十三噸等にし
て昨年比し發送に於て七
千七百四十噸到着に於て二

恩給法が因を爲し 平署に辭職者續出

現に十一名の不足を生じ
補充に非常な苦心

平警察署管内には七十名の
警官があり縣下で随一のせ
わしい處であるにもかゝは
らず昨今
辭職者が續出し遂に
人員の欠乏を來たし現に江
名、中の作、小名濱定西、内
郷、高萩、好間、請願、豊間の
七駐在所が欠員のまゝお留
守となり内勤にも四名の不
足を生じ合計十一名といふ
ものが欠員となつたので
當局は此の補充に非
常な苦心をしてゐるが一体
かう辭職者が出る様になつ
たのはどういふ原因かと探
つてみると意外々々昨年十
月から施行せられた

名刺の受け方 カテイラン

新年のやうに來客者の多く
て一人一人に面會すること
が出来ない場合は支關に名
刺を受けを備へておきます。
その意味で名刺はあまり粗
末でないやうに注意し、受
けた名刺は散亂せぬやうに
備へておきます。普通訪問

葬式歸りに 轉り落ちて 老爺の慘死

石城郡好間村大字北好間字
推木澤村生れ關林五郎(六六)
は三日午後七時頃知人早坂
新吉方葬儀の歸途に鐵道架
道から轉り落ち腦震蕩を起
して死亡し平署七海部長檢
視した

壯丁虎眼 八日平町にて

平町にては本年度壯丁のト
ラホーム検査を八日午前九
時から役場にて執行する由
だが人員百七十餘名ある由
公人私人

募集文藝其他一般投 稿を募集します

味で、左上角を表へ折り曲
げたものは祝のしるしで左
下角を表に折曲げたものは
悔のしるしです。

不平受付

◆ 投書募集
◆ 電燈料の請求 私留守
◆ 中に電燈會社の集金人が來

郡長送迎會

會場を變更
帝國館にて
本縣農商課長に榮轉した佐
瀬前郡長並びに新任水野郡
長の送迎會は昨報の如く十
日午後二時から平館で開會
の筈であつたが會場を帝國
館に變更した由であつて會
費は二圓五十錢希望者は郡

新恩給法

がその因を
なしてゐるのだといふ事が
判明した、すなはちその新
恩給法によると停年に達し
てやめる場合の恩給は幾分
割よくなつたが停年後にお
ける恩給の加算率が低下し
たのでいつまでにくまれば
にくついついて居るのは馬鹿
らしいといふので停年にな
るとさつさといふ他に職を求
めて出で行くのである

窪田處女會

石城郡窪田處女會は明六日
午前九時から處女會を開き
櫻井警城高等女學校長及び
川崎本社長の講演ある由

不平受付

◆ 投書募集
◆ 電燈料の請求 私留守
◆ 中に電燈會社の集金人が來

募集文藝其他一般投 稿を募集します

味で、左上角を表へ折り曲
げたものは祝のしるしで左
下角を表に折曲げたものは
悔のしるしです。

不平受付

◆ 投書募集
◆ 電燈料の請求 私留守
◆ 中に電燈會社の集金人が來

東株前場引値

先物 九六、二〇〇
九七、二〇〇